

山梨学院大学の授業を活用した地域連携事業の試み ：スポーツマネジメントプログラムの実践教育の取 り組み

著者名(日)	長倉 富貴
雑誌名	山梨学院大学経営情報学論集
巻	第20号
ページ	111-130
発行年	2014-02-26
URL	http://id.nii.ac.jp/1188/00003013/

《研究ノート》

山梨学院大学の授業を活用した地域連携事業の試み ～スポーツマネジメントプログラムの実践教育の取り組み～

長 倉 富 貴

1. はじめに

近年、大学は高等教育機関としての使命である「教育活動」と「研究活動」に加えて、「地域貢献活動」が重要な役割となっている。昨年、文部科学省（以下、文科省と略す）では「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」として、「人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図る」ことを目的とした「地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学」を支援する事業をスタートさせた。事業の説明資料の中で文科省は「目指すべき新しい大学像」を以下のように示している。⁽¹⁾

- 学生がしっかり学び、自らの人生と社会の未来を主体的に切り拓く能力を培う大学
- グローバル化の中で世界的な存在感を発揮する大学
- 世界的な研究成果やイノベーションを創出する大学
- 地域再生の核となる大学
- 生涯学習の拠点となる大学
- 社会の知的基盤としての役割を果たす大学

図1 文部科学省の示す「目指すべき大学像」

ここで見られる「地域再生の核」「生涯学習の拠点」「社会の知的基盤としての役割」という言葉にも現れているように、地域と連携した

取り組みは今日の大学にとって重要な課題であり、地方に所在する大学であればなおのこと、地域のニーズを拾い、課題を解決する地域の拠点となるような大学としての環境づくりをしていかなければならない。

スポーツ分野における大学の地域貢献、あるいは地域と連携したスポーツ事業については、近年様々な事例が紹介されている。事業を推進する組織のあり方も、「学内組織型」、「大学外組織型」、「プロスポーツとの連携型」、「総合型地域スポーツクラブ設立型」など多様な形で大学は地域社会との接点を持ち始めている。具体的に言えば「福島大学スポーツユニオン」は「大学外組織型」であるし、早稲田大学の「ワセダクラブ」や筑波大学の「つくばユナイテッド」などは「スポーツクラブ設立型」にあたる。どの型がベストかという問題ではなく、大学の特性、地域性、教員の専門分野、施設等、多くの要素を活かして、その大学独自の型を模索していかなければならない。しかしながら富山（2003）が指摘するようにスポーツ活動を通じた大学の地域貢献には、「大学当局」「教員」「学生」「地域住民」をつなぐ組織間のネットワークシステムづくりが不可欠である。また木村（2004）がドイツの事例を挙げて示した「公益性」「改革性」「情報公開性」「互恵性」といった要因も大学が地域と連携し地域の拠点として継続的・恒常的に機能をしていくために重要である。

山梨学院大学においては、H20年に経営情報学部にはスポーツマネジメント系の科目が開講され、これを機に地域のスポーツ関連団体、企業

と連携し共同事業やイベントを開催すると同時に、積極的に学生への実践教育の場を提供している。本研究は経営情報学部のスポートスマネジメントカリキュラムにおける授業を活用した実践教育について報告するとともに、地域と連携した事業及び地域スポーツの場での実践教育の意義について分析し、今後、大学が地域の拠点となるための方向性について議論することを目的とする。

2. スポートスマネジメントプログラム

(1) 始まりの経緯

経営情報学部では H20 年度よりスポートスマネジメント系の 13 科目を新設しスポートスマネジメントカリキュラムをスタートさせた。それ以前のスポーツ関連科目は総合基礎科目で実技科目の「スポーツと健康 I」「スポーツと健康 II」に限られていた。経営情報学部にはスポーツ系の専門科目を新設すると同時に総合基礎科目として、「スポーツ社会学」「スポーツ心理学」「スポーツ科学」「スポーツ経営学」「スポーツ医学」「スポーツと法」「トレーニング論」「スポーツ指導論」の 8 科目を全学部配置し、日本体育協会の指導者資格のカリキュラム認定を受けた。

(2) 経営情報学部の履修モデルとスポートスマネジメント関連科目

経営情報学部では、学生の興味と関心にそって学習が進められるように、経営系、情報系、実践的科目をまたぐ、4つの履修モデルを図2のように提示している。スポートスマネジメント履修モデルは情報系、経営系、実践的科目の全てに横断的にまたがる履修モデルとなっている。スポートスマネジメントプログラム関連の科

目は以下に示す通りである。

〈スポートスマネジメントプログラム関連科目〉

- ・スポートスマネジメント論 I・II
- ・スポーツマーケティング論 I・II
- ・スポーツ産業論
- ・スポーツと地域貢献（H24 年度より『スポーツと地域貢献 I』に変更）
- ・身体情報論
- ・スポーツコミュニケーション
- ・イベントマネジメント
- ・チームマネジメント
- ・スポーツリーダー論
- ・スポーツデータ論 I・II
- ・スポーツメディア論 I・II
- ・専門ゼミナール
- ・スポーツ・レクリエーション特講（H23 年度開講）
- ・スポーツ情報論 I・II（H24 年度開講）
- ・スポーツと地域貢献 II（H24 年度開講）
- ・スポーツアドミニストレーション概論（H24 年度開講）
- ・スポーツアドミニストレーション実践（H24 年度開講:旧「インターンシップ（スポーツ）」を改変）
- ・スポーツとビジネス（H25 年度開講）

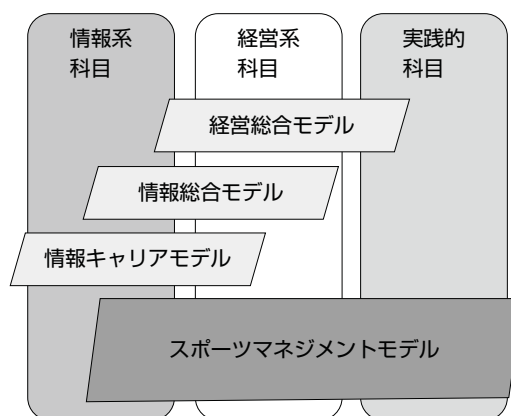


図2 経営情報学部の履修モデル

(3) スポーツマネジメントプログラムに対する学生の関心

毎年4月に実施している経営情報学部の新入生対象のアンケートの結果では、入学時において学生のスポーツマネジメントプログラムに対する関心は高いことが示されている。近年のア

ンケート結果（H22-25年度）を見てみると経営情報学科を選んだ理由（図3）として「スポーツマネジメントの勉強ができるから」という選択肢を選ぶ学生数はアンケート回答者全体の4割を超えており、H24年度からは選択肢のトップに挙げられている（図4）。

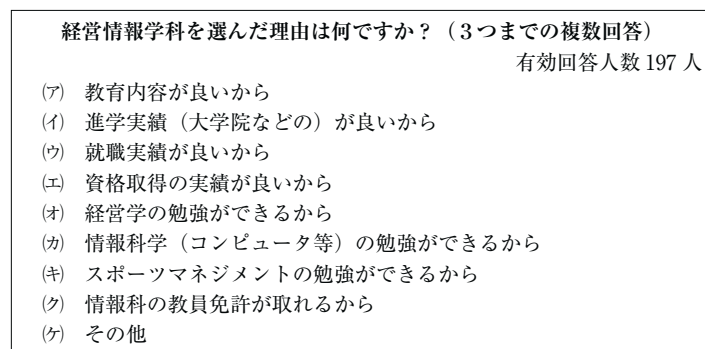


図3 経営情報学部学部新入生アンケートより抜粋

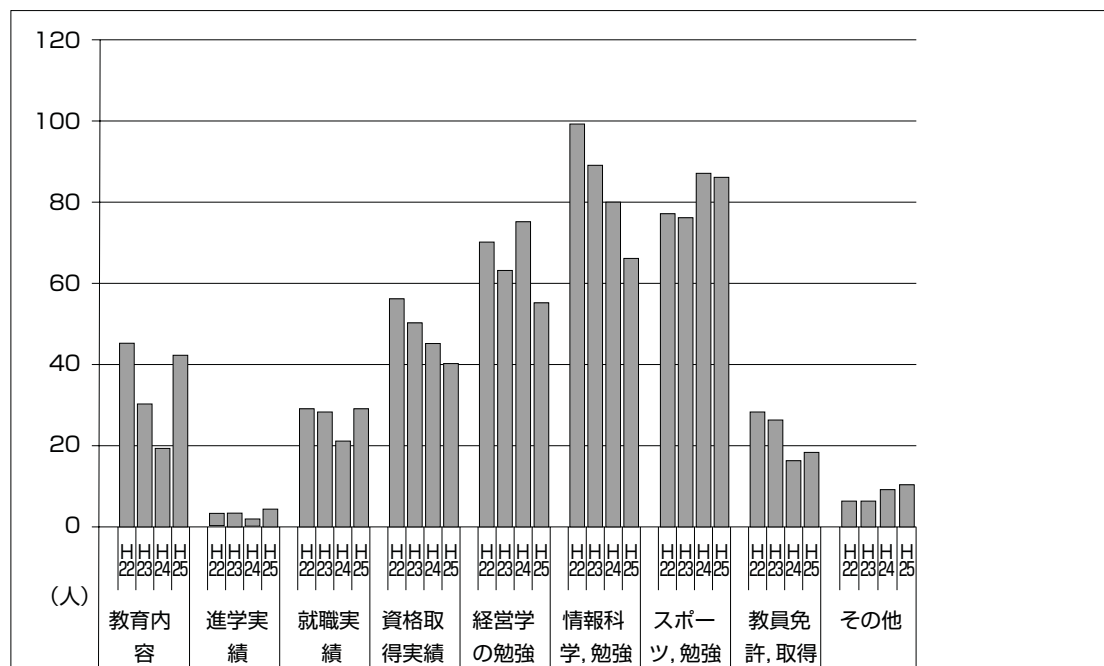


図4 経営情報学科を選んだ理由（複数回答）

3. スポーツマネジメントプログラムの実践教育

スポーツマネジメントプログラムでは授業を活用して、地域のスポーツ関連団体、企業が主催するスポーツイベントや大会に学生を派遣し、ボランティアスタッフとしてスポーツの現場での「マネジメント」を実践体験する機会を与えている。カリキュラムがスタートした初年度から積極的に学生を学外に派遣し、協力団体や企業との連携を積極的に行った。この授業の取り組みは地元Jリーグ・ヴァンフォーレ甲府と大学との業務提携にも発展した。

また、プログラムがスタートした2年目のH21年度からはスポーツの現場でのインターンシッププログラムがスタートした。「インターンシップ（スポーツ）」は事前学習で企業研究をすすめ、夏休み期間を中心に2週間を基本とした現場実習を行い、事後学習としてインターンシップの報告、報告書作成などを課題とする2単位の授業単位であった。H25年度からこの「インターンシップ（スポーツ）」を「スポーツアドミニストレーション実践」としてモデルチェンジし、今までの事前学習、事後学習、2週間の実習に加えて、受け入れ先企業、団体の担当者と双方向的なやりとりをしながら共同事業の提案や企画書を提出するという内容にグレードアップした。従来の、指示を受けて業務にあたる体験型の実習から、より主体性を求められる企画提案型にシフトさせている。

（1）マネジメント力を養う

スポーツマネジメントプログラムでは実践教育を重視しているが、学習機会の種別として「実践体験型」「運営参加型」「企画運営型」「委託運営型」の4つのタイプに区分している。それぞれのタイプで必要とされるマネジメント能力が違い、後に行くほど高いマネジメント能力が

必要とされる。図5に示すように1年生の専門科目、一部の総合基礎科目の授業を活用して学外の地域スポーツイベントに学生を派遣し、まずはスポーツの現場で実践的な体験をさせることからスタートし、段階的に2年、3年の専門科目、ゼミナール等の授業へと進む中で自分達でイベントを企画・運営できるレベル、最終的には外部からの委託を受けられるところまで学生のマネジメント力を引き上げていくことを目指している。以下に4つの型について簡単に説明したい。

「実践体験型」のイベント参加は、すでに企画が出来上がっているイベントや大会に「補助」ではいるような形で、イベントや持ち場の担当者の指示に従って行動する。スポーツの現場の様子や運営の流れ、裏方の仕事の内容を実際に見て体験することが主な目的で、参加にあたり、事前準備やその場での判断力は特に必要とされない。

「運営参加型」になるとイベントや大会のある部分を任せられ、その場での多少の判断や責任が必要とされるような学習機会では、山梨県体育協会の主催行事のファミリースポーツフェスティバルなどの事業では、大玉ころがしのコーナー担当、三輪車リレー担当というように役割が振られ、そのコーナーの仕切り、進行、ルール説明などの責任を持たされるような場合がこれにあたる。当日の流れやルールなどを事前に把握しておく必要もある。

「企画運営型」のイベント参加は、学生が独自に考えた企画を運営する学習機会である。学生企画のスポーツ大会の運営であったり、山梨クイーンビーズのホームゲーム時のハーフタイムのイベント企画というような何かの大会の中の一イベントという場合もある。ここでは企画段階からイベント準備実施までの一連の流れを体験し、場合によっては主催者側と打ち合わせを重ねる機会をもつ。この段階になるとかなり

	種別	目的	内容	対象クラス
低	実践体験	イベントの流れや運営側の仕事を知る	イベントの担当者の指示に従って行動する	1,2年生専門科目 総合基礎科目
	運営参加	責任・判断力・コミュニケーション能力を鍛える	イベントのある部門の運営を担当する	1,2年生専門科目 インターンシップ+
	企画運営	企画段階からイベント準備実施までの一連の流れを知る	学生が独自に企画を考え運営実施する	専門ゼミナール イベントマネジメント(2年) インターンシップ+
高	委託運営	将来的には独自事業を行えるための実践の機会を得る	団体・企業から委託されてイベントや事業を企画運営する	専門ゼミナール

図5 実践教育の種別とマネジメントレベル

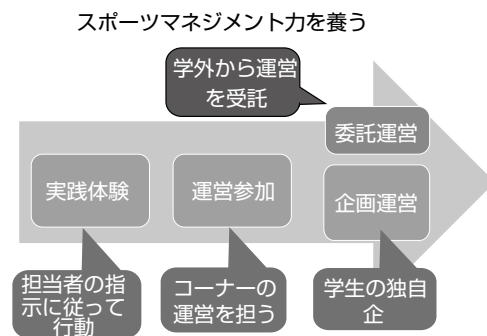


図6 実践教育で養われるマネジメント力

時間をかけて準備をし企画力、コミュニケーション力、実行力、判断力など多くのマネジメント力が必要とされることになる。

「委託運営型」については学外の団体や企業から委託をうけ、学生が独自に事業やイベントを企画運営する。出前講座であったり、委託されて学生企画の「健康づくりリーダー研修会」の企画などがこれにあたる。企画の内容だけでなく安全面での配慮、リスクマネジメントなど考慮しなくてはならないことも多くなる。

(2) 地域スポーツイベントへの学生派遣状況

表1に示したようにH25年度は関連団体からの要請や依頼に応じて、県内のおよそ15のスポーツ関連団体の42の大会やスポーツイベントに述べ数で500人を超える数の学生を派遣し、運営のサポートを行った。派遣先としてはヴァンフォーレ甲府のホーム試合(19試合)の他、山梨県体育協会、県レクリエーション協会の主催事業等、毎年恒例としているイベント・大会に加えて、H24, 25年度は文部科学省委託事業「健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業」(南アルプス市にて

開催)に80名程が参加した。

〈学生受け入れ協力団体〉

- ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ(Jリーグ)
- 山梨クィーンビーズバスケットボールクラブ(WJBL)
- 山梨県体育協会
- 山梨県レクリエーション協会
- 山梨県サッカー協会
- 山梨県ラグビーフットボール協会
- 山梨市教育委員会
- 山梨県野球協会
- (株)フィッツ(スポーツクラブ)
- ブルーアース株式会社(スポーツクラブ)
- 株式会社トミオカテニス
- (株)ピープル(小島体操クラブ)
- 山梨県体育協会
- 笛吹市企画政策課
- 笛吹市生涯学習課
- 山梨県老人クラブ連合
- 大月老人大学
- 日本レクリエーション協会 他

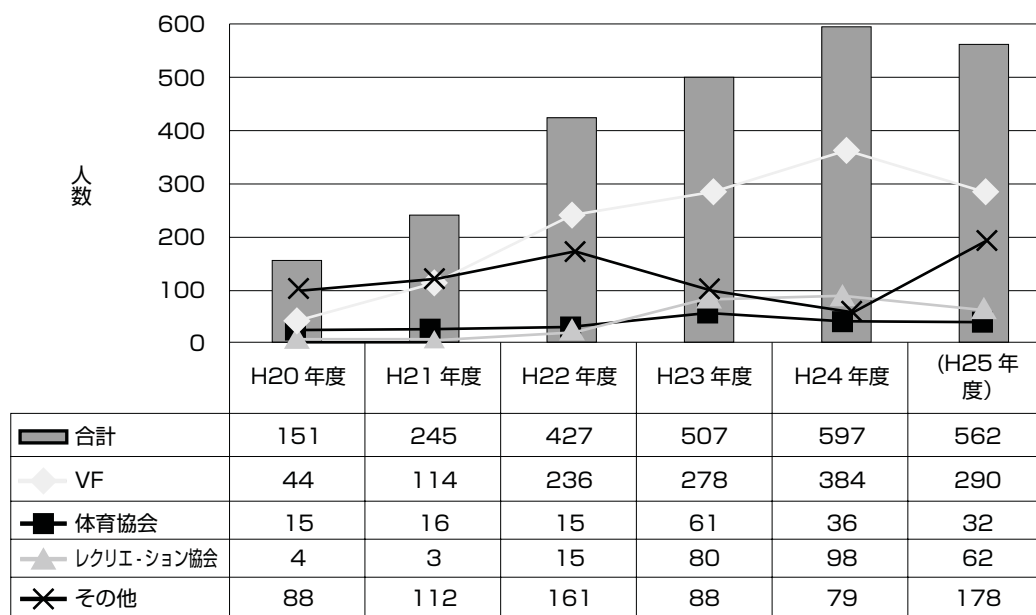


図7 学生派遣人数（H25年度は見込み）

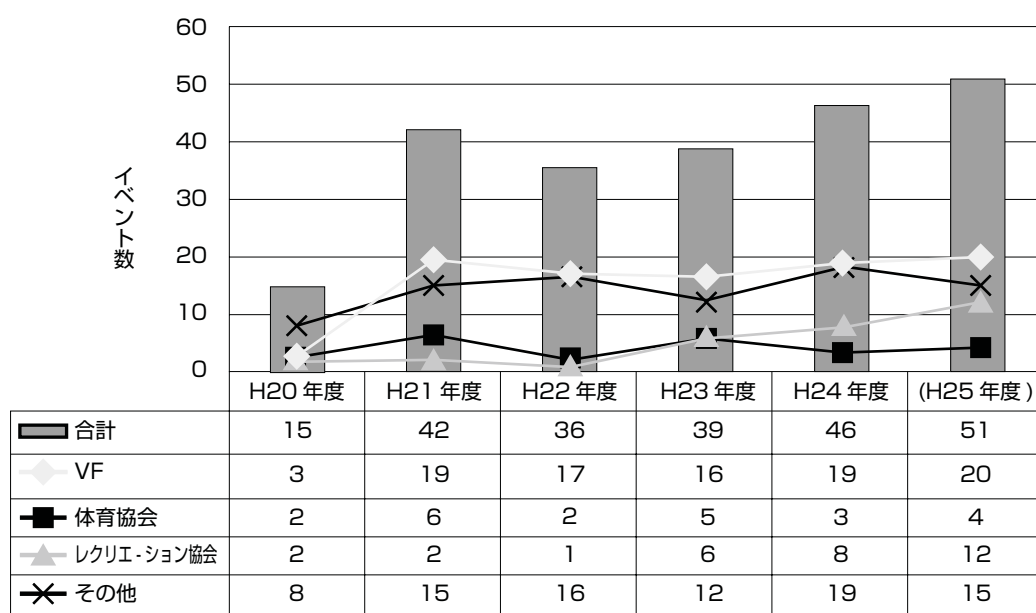


図8 派遣先イベント数（H25年度は見込み）

表1 H24年度 地域スポーツイベント日程と学生の参加人数

学習タイプ種別	日程	イベント名	人数	団体名
体験・運営	4月1日(日)	VF 甲府ホーム試合 (ギラヴァンツ北九州戦)	7	ヴァンフォーレ甲府
体験・運営	4月8日(日)	VF 甲府ホーム試合 (大分トリニータ戦)	7	ヴァンフォーレ甲府
運営	4月8日(日)	山梨学院チャリティートライアル	4	山梨学院陸上競技部
運営	4月22日(日)	富士五湖チャレンジウルトラマラソン	1	(株)ランナーズ・ウェルネス
体験・運営	4月22日(日)	VF 甲府ホーム試合 F C 町田ゼルビア	19	ヴァンフォーレ甲府
運営	4月29日(日)	ファミリースポーツフェスティバル	15	山梨県体育協会
体験・運営	4月30日(月)	VF 甲府ホーム試合 (アビスパ福岡戦)	24	ヴァンフォーレ甲府
運営	5月3日(木・金)	熊谷選手権チャレンジミートゥー熊谷	1	熊谷市陸上競技協会
運営	5月5日(土)	愛宕山こどもフェスティバル	3	県レクリエーション協会
体験・運営	5月6日(日)	VF 甲府ホーム試合 (京都サンガ F.C 戦)	25	ヴァンフォーレ甲府
体験・運営	5月20日(日)	VF 甲府ホーム試合 (ザスパ草津戦)	23	ヴァンフォーレ甲府
運営	5月20日(日)	ふれあいウォークラリー大会	4	県レクリエーション協会
運営	6月23日(土・日)	高円宮杯ホッケー日本リーグ	2	日本ホッケー協会
体験	6月3日(日)	チャレンジ・ザ・ゲーム普及審判員認定講習会	3	県レクリエーション協会
体験・運営	6月9日(土)	VF 甲府ホーム試合 (ジェフユナイテッド千葉戦)	25	ヴァンフォーレ甲府
運営	6月9日(土)	小瀬軽スポーツ体験コーナー	4	県レクリエーション協会
運営	6月10日(日)	山梨県ジュニア水泳競技大会 (イオン杯)	9	山梨県水泳連盟
体験・運営	6月17日(日)	VF 甲府ホーム試合 (カターレ富山戦)	17	ヴァンフォーレ甲府
運営	6月30日(土)	小学生ドッジボール大会	6	山梨県体育協会
体験・運営	7月1日(日)	VF 甲府ホーム試合 (F C 岐阜戦)	21	ヴァンフォーレ甲府
運営	7月1日(日)	小瀬軽スポーツ体験コーナー	5	県レクリエーション協会
運営	7月1日(日)	ネットトヨタ甲斐・トヨタホーム山梨県杯争奪レディースサッカー大会	3	甲府市サッカー協会
運営	7月7日(土・日)	シャトレゼカップ (山梨県高校生ホッケー大会)	4	県スポーツアカデミー
運営	7月12日(木)	フュンフットサルスクール	1	funf futsal school
運営	7月14日～16日	Y G U 研修大会 (ソフトボール)	7	山梨学院大学ソフトボール部
体験・運営	7月15日(日)	VF 甲府ホーム試合 (松本山雅 F C 戦)	21	ヴァンフォーレ甲府
体験・運営	7月29日(日)	VF 甲府ホーム試合 (東京ヴェルディ)	21	ヴァンフォーレ甲府
体験・運営	8月12日(日)	VF 甲府ホーム試合 (水戸ホーリーホック戦)	21	ヴァンフォーレ甲府
体験・運営	8月22日(水)	VF 甲府ホーム試合 (モンテディオ山形戦)	17	ヴァンフォーレ甲府
体験・運営	8月26日(日)	VF 甲府ホーム試合 (横浜 F C 戦)	15	ヴァンフォーレ甲府
体験・運営	9月14日(金)	VF 甲府ホーム試合 (ファジアーノ岡山戦)	18	ヴァンフォーレ甲府
体験・運営	9月17日(月・祝)	VF 甲府ホーム試合 (ガイナーレ鳥取戦)	15	ヴァンフォーレ甲府
体験・運営	10月7日(日)	VF 甲府ホーム試合 (徳島ヴォルティス戦)	16	ヴァンフォーレ甲府
運営	10月7日(日)	小瀬軽スポーツ体験コーナー	3	県レクリエーション協会
体験・運営	10月14日(日)	VF 甲府ホーム試合 (湘南ベルマーレ戦)	23	ヴァンフォーレ甲府
運営	10月20日	野辺山高原 100km ウルトラマラソン	3	(株)ランナーズ・ウェルネス
体験・運営	11月4日(日)	VF 甲府ホーム試合 (ロアッソ熊本戦)	25	ヴァンフォーレ甲府
運営	12月1日(土)	ラグビー トップリーグ	11	山梨県ラグビーフットボール協会
運営	12月16日(日)	レクリエーションサポーター資格取得講座	22	県レクリエーション協会
運営	12月22日(土)	こどもチャレンジ・ザ・ゲーム	15	山梨県体育協会
運営	1月26日(土)	健常者と障がい者のスポーツレクリエーション活動 (文科省委託事業)	54	県レクリエーション協会
運営	3月9日(土)	VF 甲府ホーム試合 (セレッソ大阪戦)	8	ヴァンフォーレ甲府
運営	3月16日(土)	VF 甲府ホーム試合 (名古屋グランパス戦)	8	ヴァンフォーレ甲府
企画	3月17日(日)	国際フェス・ミニテニスイベント	4	スポーツマネジメント研究室
運営	3月23日(土)	VF 甲府ホーム試合 (横浜 F・マリノス戦)	8	ヴァンフォーレ甲府
企画	3月30日	「テニス de あそぶ!」 国別対抗テニス大会	5	スポーツマネジメント研究室

4. 学生の実践教育の具体事例

明、進行、採点、記録等）、片付け

（１）【実践体験型】参加の事例

- ①ヴァンフォーレ甲府ホームゲームの運営サポート（ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ）
日時：毎年、ヴァンフォーレ甲府のホームゲーム全試合
場所：山梨中銀スタジアム
内容：入場口対応（配布、チケットもぎり）、会場準備、撤収、イベントブース等



図9 ヴァンフォーレホームゲーム後の撤収の様子

- ②ファミリースポーツフェスティバル（山梨県体育協会主催事業）
日時：毎年4月末～5月始めの日曜日
場所：小瀬スポーツ公園
内容：受付業務、各コーナー担当（ルール説

- ③軽スポーツ体験コーナー（山梨県レクリエーション協会主催事業）

日時：月1回土曜 or 日曜

場所：小瀬スポーツ公園芝生広場

内容：軽スポーツで遊んでもらう（フリスビー、カーリング、竹馬、グラウンドゴルフ等）

（２）【運営参加型】参加の事例

- ①甲府国際オープンテニス 特別イベント「テニス de あそぶ！」国別テニス対抗戦

第1回：2011年4月1日

第2回：2012年3月30日

甲府国際オープンテニス（フューチャーズ）の10周年記念特別イベントとして、第1回国別テニス対抗戦「テニス de あそぶ！」を行った。世界各国から選手が集まる甲府国際オープンテニスの大会会場でコート空き時間を利用し、初心者でもラリーが続くレッドボールを使用し、日本・ブラジル・中国・韓国国籍の留学生、山梨在住外国人、テニス愛好家などがあつまり賑やかに開催された。参加者がそれぞれの母国ムードを出しながら大人も子供も皆が楽しそうに競っていた。また、地域社会で孤立しがちな外国人にスポーツの場を提供することで外国人と日本人の共通の居場所づくりと地域住民との交流・多文化共生を促進することにもつながる意義のある事業となった。

第1回目が大変好評であったこともあり、翌年、第2回大会を開催した。第2回は県市民団体ハート51とスポーツマネジメント研究室（長倉ゼミ所属学生）が共同で企画した。ペルーチームが新たに参戦し日本、ブラジル、ペルー、中国、韓国の6カ国対抗となった。子供から大人、テニス愛好家も普段テニスに馴染みのない

参加者も笑い声をあげながら楽しくイベントに参加していた。この企画はスミセイコミュニティスポーツ推進事業の助成金を受け開催した。これらイベントには企画から会場準備、運営、ルール説明、審判、進行などそれぞれ10名程の学生が携わった。

②市川三郷町町民会館「ワールドフレンドシップフェスタ」

日程：2013年3月17日

多文化共生を考える会「ハート51」と4つの市町村国際交流協会（市川三郷町・中央市・南アルプス市・富士川町）とが共催で、浜松市の日系ブラジル人若者のドキュメンタリー映画「孤独なツバメたち」の上映。山梨で初めて開催し全体で200名を超える参加者をみた。このイベントの中で、午前中に「You 遊テニス」

図10 イベントチラシ・ポスター

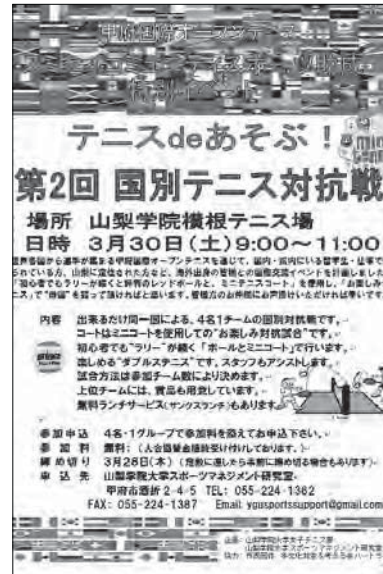


図11 国別テニス対抗戦（ミニテニス）の様子

を行い、日本人と外国人の親子 45 名の参加があった。観戦者も含めれば 80 名の人が会場に足を運んだ。参加者ほとんどの人が楽しむイベントとなった。また「レッドボール」を使用し室内でも安全に 3 歳の幼児から 72 歳のシニア世代まで幅広い年代と一緒に活動することができた。6 人の学生が設営、イベントの受付、進行、レッスン、撤収などを担当した。

ミニテニスイベントの参加者へのアンケートの結果は以下の通りであった。

〈ミニテニスイベント参加者のアンケート調査結果より〉 回答者数 37 人

ミニテニスイベントは楽しかったですか？

楽しかった：34 人 ふつう：2 人

楽しくなかった：0 その他：1 人

参加者コメント：

- ・来年のイベントもこんな感じにしてください。
- ・ミニテニスやコマがあったり、午後には映画があったので子どもや大人も楽しめる所だなと思いました。
- ・ミニテニスで多くの方が楽しんでいた。とても良いイベントになったと思う。
- ・3 歳の子ども（男の子）が学生の方に親切にテニスを教えていただき、いい体験となった。

りました。ありがとうございました。とても良いイベントだと思います。

- ・外国人が増えている社会なので、異文化交流は大切だと思います。
- ・小さな子供も楽しめるテニスイベントでとても良かったです。
- ・身近な外国を理解するよい機会になると思います。
- ・5 歳の息子は始めてテニスを体験しましたが今日はとても楽しかったようで、テニスをやりたいと行っています。今度テニスクールにいてみようと思います。

（3）【企画運営型】参加の事例

①山梨クィーンビーズホーム試合の運営補助及びハーフタイムイベント企画

日程：2010 シーズン中の 4 大会の運営補助、
ハーフタイムイベントは 2010 年 11 月 10 日

2010 シーズンの WJBL リーグの山梨クィーンビーズのホーム試合の 4 大会の運営補助を長倉ゼミに所属する学生でおこなった。山梨学院大学を会場に行われた試合ではハーフタイムにおけるシューティングゲームの企画も学生が担当した。事前に大会組織委員会の会議に参加しクラブ、大学と打ち合わせを行ったり、イベン



図 12 室内で行われたミニテニスイベントの様子

トの企画、景品の準備、イベント告知と募集等を行った。大会の案内とイベント告知のために酒折駅前で通勤客、通学生にビラ配りも行った。大会当日は会場準備や受付、音響、進行なども学生が担当した。

②ヴァンフォーレパークの運営及びキックフォーム撮影企画（ゼミ企画）

日程：H20年9月～現在。毎シーズンヴァンフォーレ甲府の全ホームゲーム時

場所：山梨中銀スタジアム

Jリーグのヴァンフォーレ甲府のホームゲーム時に開催されるスタジアム場外に設置される参加型パーク「ヴァンフォーレパーク」をクラブから依頼され長倉ゼミナールが運営している。ヴァンフォーレパークは無料で誰でも参加できる参加型イベントの「キックターゲット」、「ピッコロパーク」の2つのエリアから構成されており、得点や内容によって景品等がプレゼントされる。景品はクラブから支給されるが、キックフォーム撮影時の紙やインク代の経費は大学の実践活動支援費からまかなっている。

・キックターゲット

キックターゲットとはエアーゴールに向かってボールを蹴り高得点を狙うゲームで、参加者には、点数を狙って3回のボールを蹴ってもら

い、3回蹴った合計点数に応じた景品をプレゼントする。老若男女問わず幅広い人が参加する人気ブースである。長倉ゼミのオリジナル企画として月に1回程度フォーム撮影&プリントサービスを実施している。スタッフは、入場整理に1人、ボールセット・進行に1人、ボール拾いに2人、フォーム撮影に1人、景品プレゼントに1人、の最低6人が必要となる。フォーム撮影会を開催する時はこれに加えて2名増員で対応している。

・ピッコロパーク

ピッコロパークは人工芝を敷きフェンスで囲った5mx15m くらいのエリアでサッカーボールでのミニゲームを楽しむことができるエリアである。少人数で自由にボールを蹴り合うことができるが、参加者が多数いる場合はミニサッカーの試合をすることができる。毎回子供たちが熱い試合を繰り広げている。順番待ちをしている子も後を絶たないほどの人気ブースである。スタッフは、安全のための監視・試合のルール説明や審判、時間の計測、適時グループ分け等に1人～2人必要となる。

・フォーム撮影&プリントサービス

月に1回程度の頻度でキックフォーム撮影を撮影し印刷して参加者にプレゼントする。これ



図13 酒折駅前でのイベント告知とビラ配りと試合開催準備の様子

は日本ナレッジ社の「MVP2000」動態解析ソフトを使用しキックフォームをビデオカメラから PC に取り込み、ソフトを介して 12 分割の連続写真に編集しプリントアウトして参加者にプレゼントするというものである。参加者は自分のキックフォームを客観的に見ることができ、ヴァンフォーレのロゴと対戦チームの名前、日付も入るので来場の記念にもなり子供から大人まで幅広い年齢層に好評で人気のある企画となった。これは長倉ゼミオリジナル企画で H20 年からずっとこの企画を続けている。H21 年度はこの企画で学生チャレンジ制度に認定され大学から経費の助成を受けることができた。

ヴァンフォーレパークを運営して立ち寄

られた J リーグ関係者によればキックターゲットをイベントとして開催しているクラブは J リーグでも数多くあるが、学生に企画から運営までを任せているのはめずらしい、おそらく J リーグの数あるクラブの中でも私たちのこの企画ぐらいだということだった。これらの活動は山梨日日新聞「ときめきゾーン」（2009 年 12 月 23 日掲載）や山梨新報（2012 年 4 月 6 日、2013 年 12 月 27 日掲載）、甲府 CATV などメディアにも多く取り上げられた。

また北九州市立大学で 2009 年 10 月 18 日に行われた「スポーツを通じた地域の活性化」をテーマとしたシンポジウムにて長倉ゼミの活動が紹介された。

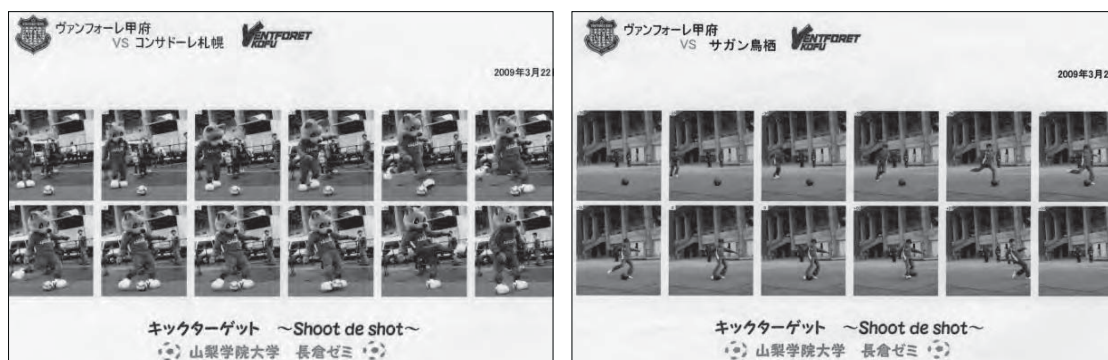


図 14 連続写真の見本

9 : 30 (9 : 00 *)	集合
9 : 40 ~ 10 : 20	ボールエリアの設営
10 : 30	イベント開始
14 : 00	イベント終了
14 : 00 ~ 14 : 30	撤収作業・反省会
15 : 00	解散・試合観戦

* フォーム撮影をする日は 30 分早く集合

図 15 ヴァンフォーレパーク運営のスケジュール例（キックオフが 14 : 30 の場合）



図 16 ヴァンクォレパーク運営の様子



図 17 山梨新報の記事 (2012.4.6)

（４）【委託運営型】参加の事例

①山梨県老人クラブ連合「健康づくりリーダー研修会」企画運営（ゼミ企画）

日時：2013年7月10日(水)

場所：小瀬スポーツ公園武道館アリーナ

内容：健康づくりのためのレクリエーションの指導（学生の独自企画）

受託先：山梨県老人クラブ連合会

山梨県老人クラブ連合会より依頼をうけて高齢者対象の「健康づくりリーダー研修会」を学生の企画運営で行った。各地区の老人クラブのリーダーである70名ほどの高齢者を対象にキ

ャッチング・ザ・スティックなどの軽スポーツを体験してもらった。学生達はこの日のプログラムをつくるために県レクリエーション協会を訪れ、スタッフからレクリエーションの種目やルールについてアドバイスを受けたり、高齢者向けの種目の選定やルールを話し合ったり準備をすすめていた。当日は42度7分という日本一の暑さを記録する猛暑日で、空調のない体育館での研修会で参加者の体調管理を心配していたが、体調を崩す参加者も出ずに、参加者からはあちらこちらから大きな笑い声がおこり楽しい会を開催することができた。参加者からのコメントは「若い世代の人と一緒に活動できて本



図 18 研修会の様子

当に楽しかった。」「今日は大きな声で笑うことができとてもたのしかった。学生さんたちの頑張りに元気をいただきました」「こんな楽しい時間を企画していただき感謝いたします」等、嬉しい言葉をたくさんいただくことができた。この企画では、企画や準備、進行マネジメントの大切に加え、改めて多世代交流事業の意義を学ぶこととなった。学生達にとってはこの企画を無事成功させたことで大きな自信をつけたように思う。

5. 学生派遣の効果、意義について

(1) 学生の立場から

学生を学外イベントに派遣する時に「課題シート」というものを学生に渡し提出させている。この課題シートの内容から学生が実習をどのように捉えているかを知ることができる。内容はイベントの日時場所等の基本的な情報に加え、担当した業務内容、改善点、業務に関わった感想や感じたことなどを記述させている。多くの学生が共通して挙げている内容は大まかにまとめると以下の通りである。学生コメントの数点を参考資料として添付した。現場での体験から学生たちは多くのことを感じ学んできていることがわかる。

実習で学んだこと、得たこと

1. 人との交流の難しさ、楽しさ、嬉しさ
2. 知らなかったスポーツ現場の裏方事情
3. 新しい自分発見
4. 将来の役に立つ体験
5. スポーツ活動の意義
6. 笑顔の大切さ、社会人としてのマナー
7. 現場スタッフの仕事ぶりの素晴らしさ

(2) 受け入れ側の立場から

学生受け入れ担当者から話を聞くと、まずはスタッフ不足のところへの人材投入に対しとても感謝しているという声が多い。また、学生＝若い人が地域のイベントに参加すること自体が地域から喜ばれ、イベントや地域の活性化に役立っているということもあるようだ。またヴァンフォーレ甲府や山梨クィーンビーズなどは若い世代、特に20-20代の観客動員に課題があり、この世代がスタッフとして試合運営に関わることでそのスポーツや試合に興味を持ち、将来自主的な観戦につながればという願いもあるようである。

(3) 大学の立場から

学外のスポーツ団体と連携して、実践教育の場を確保し、学生にスポーツの現場を体験させることは教育的な面から大変意義がある。特にスポーツの世界は年々様相が変わり、数年前のテキストの情報はもう古いということが往々にしてある。リアルタイムのスポーツの現場で自分たちの五感で感じ、得た知識や経験はとても大切で彼らの将来にも生かされうるものである。キャリア教育という面でもとても効果がある。

また常日頃から学生の派遣や共同事業などで築いている信頼関係から学生の採用を積極的に受け入れてくれる場合がある。実際にイベント参加を通してその仕事に興味を持ち、結果的にその場に就職した学生も数名出てきている。こうした卒業生が今度は学生の受け入れ担当者となる場合もありよい循環が生まれつつある。

また冒頭で述べたように大学は「教育活動」、研究活動」と同時に「地域貢献活動」に責務がある訳だが、地域のスポーツイベントや大会に学生を派遣することで大学は地域と接点を持ち教育・研究実践の場を持ちながら、地域のスポ

ーツ現場の人材不足の課題を解決したり、若者の投入で地域を活性化するという「地域貢献」に結果的につながっている。

6. 実践教育を支える環境

先に述べてきたように年間 500 人を超える学生を地域のスポーツ関連団体やイベントに派遣し細々とした連絡や調整する作業には非常に労力を要する。当初は教員の努力の上に成り立っていたが、H23 年度からはこれらのプログラムを支える組織、学外の組織との連絡調整の窓口としては経営情報学部の実践教育の場の調整、資格取得支援、キャリア支援などを効果的に行えるように H23 年より経営情報学部の予算で運営されている。

（１）スポーツマネジメント研究室と地域スポーツコーディネーター

スポーツマネジメント研究室はスポーツマネジメント領域を専門とする教員を中心として、主にスポーツ関連の研究調査、学外での実践教育の場の調整、資格取得支援、キャリア支援などを効果的に行えるように H23 年より経営情報学部の予算で運営されている。

➤学生の実践教育の場を確保することを目的とする。

➤スポーツ分野に関するキャリア支援、スポーツ系資格取得支援を行うことを目的とする。

➤スポーツ関連情報の収集と発信、研究調査をすることを目的とする。

➤地域のスポーツ関連団体との連携を強化し、大学の地域貢献と学生の雇用の拡大を促すことを目的とする。

（２）地域スポーツコーディネーターについて

また、これらの活動をより効率的に推進するために、事務一般（学生派遣の調整、受け入れ団体との打ち合わせ、連絡、報告書作成等）を担当する「地域スポーツコーディネーター」（アルバイト）を配置している。

H24 年度から CMP（学部横断型副専攻）のスポーツアドミニストレーションプログラムがスタートし、経営情報学部、現代ビジネス学部、法学部のカリキュラムを横断し 50 科目程のスポーツ系科目が展開されているが地域スポーツコーディネーターは学部のスポーツマネジメントプログラムに加えてこれらのプログラムとも連携して効率よく学生支援を行えるよう以下の業務を担当している。

【地域スポーツコーディネーターの業務内容】

- ・スポーツボランティアの募集と派遣
- ・学生派遣に関する外部団体、企業との連絡、調整。
- ・学生向けの資格取得支援、キャリア支援サポート
- ・レクリエーション資格に必要な学外実習の調整
- ・ブログ等での情報発信
- ・スポーツ関連情報の収集と提供
- ・スポーツ関連講演会・イベント等の案内
- ・報告書作成

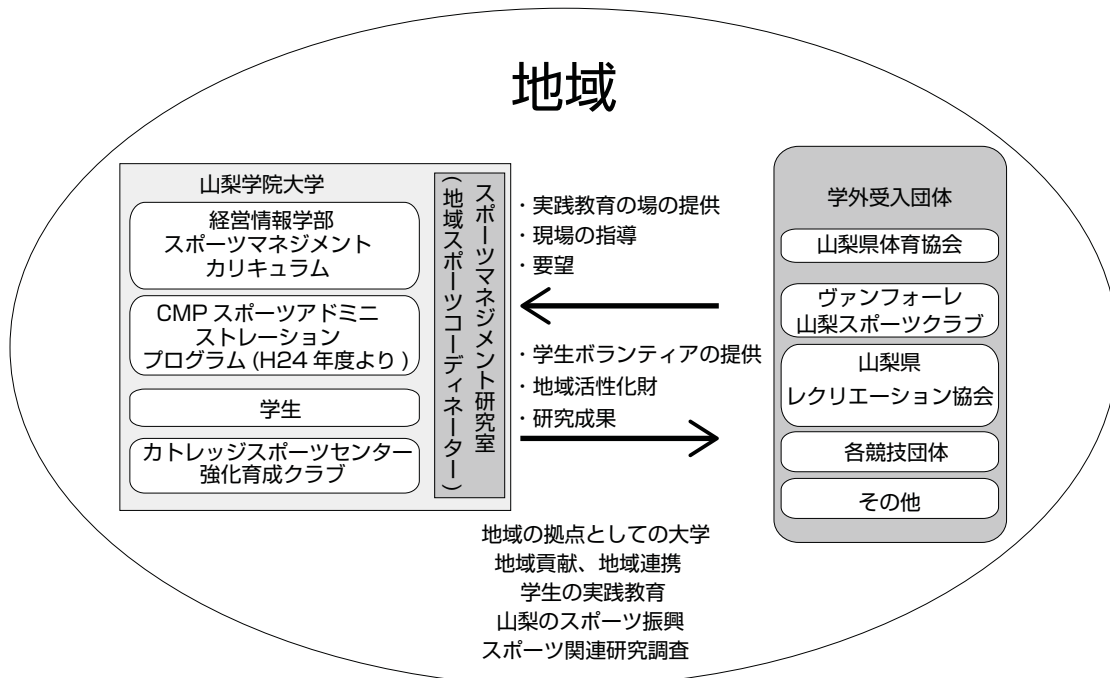


図19 スポーツマネジメント研究室の位置づけ

7. 現状の課題

概ねの学生が実際の現場での体験を好意的に受け止めていて、受け入れ側からも歓迎されたが、少なからず問題点も出てきた。学生側の問題としては、遅刻や無断欠席、服装や身だしなみ、マナーの問題、またまれに学生の態度などが受け入れ側から指摘されることがある。また受け入れ側の問題としては、団体やイベント・大会によって学生の扱いや対応に差があることがあげられる。基本的に交通費等の支払いはなく移動手段は学生に委ねていることや、お弁当の支給の有無や保険の問題もある。また、大勢の学生の受け入れを了解、または要望しながら人数に見合った作業を用意してくれていない、などの問題もあった。年末の寒い時期に朝9時から5時まで車の出入りのない駐車場に学生を立たせたまま何の指示もなかったこともあっ

た。当然ながらこうしたイベントに参加した学生の満足度は低かった。大会主催者としてはそうした所に人員配置も必要であるだろうが、学生の実践学習の場とした意味合いを考えると担当業務としては適切とは言えないであろう。主催者側と連絡を密にして学生派遣の意図や意義について説明し理解を得る必要があった。この点に関しては、数年、連携プログラムを継続する中で調整がとれてきている。またアルバイトでコーディネーターを配置したことで外部団体、関係者とのきめ細やかな連絡調整が可能となりプログラムをよりスムーズに運営できるようになってきている。

また、大学側の問題としては、新入生アンケートの結果に見るように、入学時、学生のスポーツマネジメントプログラムへの関心はとて高いものがあるが、必ずしも学生の期待に応える教育内容を提供する環境が整っているとは言

えない。スポーツマネジメントプログラムに関心を寄せる学生は学部定員の4割（100名程）を超える数であるにもかかわらず、専門科目を担当する専任教員は現在2名である。スポーツマネジメント系ゼミを担当する教員はH20-22は1名、H23からは3名だった。学生の受け入れ枠を幅を増やすために非常勤勤務の先生にゼミの開講をお願いしなくてはならないという状況である。H26年度から非常勤の先生によるゼミを含めスポーツマネジメント系のゼミは4つ開講されるが、関心をもつ学生数に対してまだゼミの数も少ないのが現状である。より質の高い教育を学生に提供するためにも、近い将来、スポーツマネジメント系の専任教員の増員は急務であると考えられる。

現在、個人的な研究室の範囲で運営されているスポーツマネジメント研究室を発展させ「大学当局」「教員」「学生」「地域」を機能的に結びつけ、プログラムをよりよいものへ発展させ「地域スポーツ支援センター」であるとか「地域スポーツ連携事業推進室」というような大学の組織機関を設置して大学が戦略的にスポーツを通じた地域貢献をすすめることも必要ではないだろうか。

VIII. 参考資料

参考文献

- 1) 「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」説明会資料、文科省HP、（2013年11月1日アクセス）.
- 2) 富山浩三（2003）「スポーツを通じた大学の地域貢献プログラムの開発―「教員」「学生」「地域住民」のネットワークシステムの構築―」、体育・スポーツ教育研究 4(1) 5-11.
- 3) 福島大学スポーツユニオン編（2004）『スポーツによる地域貢献で大学は変わる』大修館書店.
- 4) 黒須充（2004）「福島大学スポーツユニオンは地域・学校をどう変えたか」、体育科教育 52(1) 34-37.
- 5) 木村真知子（2004）「大学による地域連携スポーツ振興事業のあり方に関する考察～ドイツのBallschule Heidelbergを事例として～」、スポーツ教育学研究 24(1) 39-54.

参考資料：イベントに参加した学生のコメント

学生コメント例1：

参加したイベント名	ヴァンフォーレホームゲーム運営サポート
担当した仕事の内容	午前・会場準備（特別席の準備、各部屋の机拭き、椅子運び、ひな壇の移動、札はり、ダンボール片付けゲームボールの用意 等）午後・キックターゲットのゲームのイベント補助（商品の袋詰め、受け渡し、ゲームの盛り上げ）
イベントに参加して学んだこと	イベント準備は思っていたよりも作業が多かった。時間厳守で本当に細かいタイムスケジュールが組まれていた。席に名札をつけたり、見やすい場所に注意を呼びかける札を貼ったり、動きやすく、皆が平等になるようにマスコミの席を配置したり、見えないような所にも気を配ることが大切なのだということがわかった。小さな作業一つ一つが大切であることがわかった。スタッフの人はとても元気で気持ちの良い人ばかりだった。イベントは観客・選手・サポーター・スタッフ・マスコミなどたくさんの人が丸となって作られるものだということがわかった。イベントを準備・実行することは本当に大変なことである。作る側にも楽しむことが必要。
よかった点・改善点・反省点	たくさんの人と協力しあい、作業することができた。人と触れ合うことができた。一生懸命になることができた。ゲームイベントでは、声を出し、集客を行った。元氣よくできたと思う。楽しんで作業することができた。意欲をもって行えた。準備の作業の際、丁寧になりすぎて少し時間がかかってしまったことがあった。来客者に配慮した行動がとれた。
イベントに参加しての感想	私は今まで楽しむ側でイベントに参加することはあっても、作る側の立場になったことはなかったので、今回の体験はとても新鮮でした。イベント設営は思ったよりも作業が多く、イベントを実行することは大変なことだと実感しました。しかし、自分たち一つ一つの作業で会場が作られていくのだと思うと一生懸命にならずには居られませんでした。担当の方には、「雑用ばかりですいません。」と言われましたが、全然苦ではありませんでした。裏のゲストルームや会見場の準備のときにはどのような場所だと説明してくださり、とても貴重な体験ができたと思います。午後のキックターゲットのゲームイベント補助では、サポーターの方たちと触れる機会がありました。小さな子どもから大人まで、年齢を問わずたくさんの人に参加していただき、私自身も楽しんで行うことができました。賞品を渡すとき、相手の嬉しそうな顔を見ると私まで嬉しくなりました。このイベントのときには、参加者を増やしたいという気持ちから、自ら声を出したり、列が通行の邪魔にならないよう整備したり積極的に動けたと思います。本当に楽しかったです。そして、全体の作業を終え、担当者の方に「お疲れ様でした。」とお礼を言われた時は、今日一日を精一杯やり遂げたという達成感でいっぱいになりました。試合観戦のときにはおもわず会場を見渡してしまい、また感動してしまいました。少しのことしか出来なかったけれど、それでも今日この試合を実行する力になれたのだと思うと、本当に嬉しくなりまし。寒さの中で、疲れもあったけれど、学ぶことがたくさんあり、たくさんの人の笑顔に触れることができて本当に良かったです。

学生コメント例2：

参加したイベント名	ヴァンフォーレ甲府ホームゲーム運営サポート
担当した仕事の内容	会場（室内）準備→チケット販売
イベントに参加して学んだこと	全ての人がヴァンフォーレ甲府のメンバーなんだと思った。みんな試合がスムーズに快適に運営できるように心配りをされていて良かった・上の人から私達ボランティアまでみんなで協力して仕事することで準備の効率も上がる・仲間意識だったりチームへの思い入れも強くなる・選手が強いだけでは良いチームだとは言えない・チームを作る全ての人が協力し、目標を目指すことで、チームが強くなっていくんだと思った。

山梨学院大学の授業を活用した地域連携事業の試み（長倉 富貴）

よかった点・改善点・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・エコ活動：飲み物のコップをリユース制にしていた。その他にもゴミの分別はもちろん、ペットボトルのフタまでも分けていたりエコなスタジアムだった。 ・行事イベント：七五三にちなんでの特別チケットを販売した。チケット代が安くなるので気軽に来やすい、新しい試みで買う側も楽しくなるので良いと思った。 ・地域密着型：自分たち以外に多くのボランティアの方が参加していた。本部だけでなくみんなで支えてる感じがした。
イベントに参加しての感想	初めて参加するイベントだったので緊張はもちろん、サッカーにも詳しくなかったので足手まといにならないか不安でした。でもスタッフの方や私を指導してくれた方みんな優しく明るい方ばかりだったので、私も楽しめて仕事をすることができました。私は室内で、事務的な仕事ばかりだったけど、外で雨の中、仕事をしている人は寒いし大変だったけど嫌な顔もせず楽しそうに仕事をしていたので、みんなこの仕事が好きなんだと感じました。

学生コメント例3（まとめ）：

参加したイベント名	ファミリースポーツフェスティバル（山梨県体育協会）
担当した仕事の内容	・イベント準備・補助・片づけ
イベントに参加して学んだこと	・参加者をいかに楽しませるかが重要だと思った・コミュニケーションがとれる良いイベント・運営する側が内容をほぼ100%分かっていなければお客さんに迷惑がかかると改めて実感・自ら進んで仕事を探すこと
よかった点・改善点・反省点	・家族で楽しめる種目が数多くあって良かった・参加者と交流できた・自分たちも楽しめた・一人一人が自分の役割を素早くこなし、協力して行うことができた・イベントがスムーズにできて良かった
イベントに参加しての感想	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントを楽しみながら、勉強することができて良かった・イベントで感じたことは、スポーツは全ての人と人をつなぐことができるものだった ・子供と親が協力して頑張っている姿を見てすごい良いなと思った・準備が大変だったが、帰りに「ありがとう」と言ってくれる親御さんやお子さんの言葉が嬉しかった・良い経験ができたのでまた参加したいと思う。

学生コメント例4（まとめ）：

参加したイベント名	ふれあいウォークラリー大会（山梨県レクリエーション協会）
担当した仕事の内容	・道案内・本部にて景品作り・コースの通過点のチェック・テント設営・会場準備 片付け・駐車場での車誘導
イベントに参加して学んだこと	・家族や地域の人とのコミュニケーション・子供のキャパシティの高さに驚いた・イベントを安全に行うために多くの人が努力し協力している事を学んだ・人とのつながり
よかった点・改善点・反省点	・小さな子供から保護者まで一緒に楽しめた点・イベントの内容が良かった・参加者が最初から最後まで楽しめるように考えていてよかったと思う・大きなトラブルがなくイベントを終われたこと・雨が降ってきたがゴール地点で豚汁を配っていたため、ゴールした後も体を冷やさずに温まれたこと
イベントに参加しての感想	・参加者の笑顔を見ることができ良かった・とても楽しかったので機会があったらまた参加したい・いろいろな人たちと協力しイベントを成功させることができて良かった・幅広い年代が楽しめるイベントだと感じた・参加者が楽しそうにしているのが伝わり自分も楽しく参加できた・閉会式後、何人かの参加者に「楽しかったよ、ありがとう」と声をかけてもらい嬉しい気持ちになった